

キャラクター名
リリアン・G・コードウェル

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	FHチルドレンA	カヴァー	FHチルドレン/マスターレイス
	モルフェウス					
オプション			年齢	17	性別	女
覚醒	渴望	衝動	殺戮	初期侵食率	35	%
出自	待ち望まれた子	経験	平凡への反発	邂逅	理想の実現	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	7
感覚	3		0			3	(非装備時)	7
精神	1		0			1	戦闘移動	12
社会	1		0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	13		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚	2		意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:	FH	3
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ミリオンバイン	白兵	4r+10	12	28		カスタマイズ:エピック(攻撃力+4)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
情報収集チーム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
コードウェルの子	P	N		
ヨハン・C・コードウェル	P 連帯感	N 狂犬ですね		
レリア・ジュリー	P 親近感	N 侮蔑		
アルフレッド・J・コードウェル	P 尽力	N 疎外感		
パオ・オズマ	P 好奇心	N 無関心		
梅津アラン	P 好奇心	N 食傷		
マスターレイス:シグマ	P 殺しますね?	N お父様の御心のままに		

最大財産P: 8 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:モルフェウス	3	2	メジャー					
効果: C値-[Lv]								
カスタマイズ	3	2+4	メジャー	武器		対決		
効果: ダイス+[Lv]個								
ポルターガイスト	1	4	マイナー	至近	自身	自動	100↑	
効果: シーン間、攻撃力+[選択した武器の攻撃力]、選択した武器は破壊される								
砂の加護	3	3	オート	視界	単体	自動		
効果: 判定直前に使用、判定ダイス+[Lv+1]個、R1回								
折り畳み	★							
効果:								
シークレットポケット	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

長く子供のいなかったハイアット家によく生まれた子供、それがリリアン=ハイアットと言う少女であった
 ようやく生まれた娘というだけで両親は彼女を溺愛したが、それに加えて彼女は優秀だった
 端から見ると、彼女の人生は順風満帆そのものだった
 円満な家庭、度々過保護なものの善良な両親、優れた能力、それに伴う周囲からの評価
 だが、彼女の人生はある出来事により唐突に幕を下ろすことになる
 彼女の通っていたエレメンタリースクールにおいて発生した、爆発事故
 死者126名、負傷者368名を数える凄惨な事故
 その原因は今もって不明とされている、そんな事故に彼女は巻き込まれ、命を落としたのだ
 地元では有名であった彼女の死に、両親は勿論、地域の殆どの人々が悲しみに暮れた
 ニュースやドキュメンタリー系のテレビ番組でも放送されたほどだ
 「薄命の天才少女」
 現在、彼女はそんな風に呼ばれている

□□と、いうのは表向きの話
 彼女は生きている、オーヴァードと呼ばれる化け物となって
 正直な話、彼女は退屈だった
 優しい両親、ぬるま湯のような世界、やれば何でもできてしまう自身の能力□□どれもこれも彼女を退屈させる要素だった
 彼女は刺激を、世界を破壊するような刺激を欲していた
 そして彼女は出会ったのだ、表向きは爆発事故ということになっている、ジャームの大量発生事件
 UGNにより、元は生徒や教員だったジャームたちが倒され、全てが終わったかに見えたその時、彼が現れたのだ
 その場にいたエージェントたちを無造作に一蹴すると、その場で唯一、意識を保ちながら、まだ人間であった彼女に視線を向ける
 その瞬間、彼女の体に、心に、電撃のような衝撃が走った